

福原前総長・学長

# 東都春季リーグ開幕戦で始球式

東都大学野球・春季リーグ戦開幕戦(4月5日)で、中央大学前総長・学長で中大法科大学院の福原紀彦教授(62)が自身初となる始球式のマウンドに立った。



神宮球場の場内アナウンスに紹介されて、いざマウンドへ。一塁線手前で帽子を取り、一礼した後、歩を進める。

富沢球審、国学院大の清水投手らが見守るなか、右腕から放たれた注目の1球は左打者の亜大・法兼選手の背中をワンバウンドで通り抜けた。

ボールを処理した捕手の君島選手がマウンドに駆け寄って、記念のボールを渡す。福原教授は再び帽子を取って場内の歓声や拍手に返礼した。この模様はリーグ戦の試合同様、連盟配信のネット映像でも紹介された。

「指が(ボールに)引っかかりすぎて、バッターの後ろに行ってしまった。キャッチャーまでは思った以上に遠かった。肩は十分回りますが、腕の力が弱っています」

投手―捕手間は18・44㍎。硬式野球部部長を兼任する福原教授といえども、ベンチから、あるいはテレビ

画面を通じて見ているバッテリー間の距離とは、やや勝手が違ったようだ。

中大硬式野球部の秋田秀幸監督は開会式出席後、バックネット裏で見ていた。「ハラハラしましたが、キャッチャーまで届いたのだから大したものですよ」と笑顔で話した。

ことし東都大学野球は創立85年を迎えた。中大は当初の「五大学野球連盟」からの加盟校だ。連盟のさらなる発展と注目度アップなどを図る一環として、春季から始球式を復活させた。

リーグ戦期間中、1部加盟校6大学が出場試合で交互に行う。開幕日第2試合の始球式では、東洋大の増子敦仁野球部長が務めた。同氏は中大卒業生、経理研では福原先生にも教わった。4月13日には、中大野球部副部長の松原敏隆広報室長が務めた。

開幕戦の始球式は連盟が担当す

る。これまでは連盟理事長が登板してきたが、今回は本郷茂理事長(青山学院大)が学校行事で不参加となり、副理事長である福原教授がリリーフに立った。

マウンドへ上がるまでが大変だった。福原先生は大学の教壇に立つほか、各種の団体での役員や委員など公務が多く、忙しい毎日。投球練習をしたくてもままならない。

これまで中大グラウンドで夏季に開催される中大杯少年野球の開幕始球式を務めたことはあるが、それは軟球だった。始球式で使う硬球を持ち帰った自宅で秘密練習を試みるもやはり多忙ゆえに、練習不足を感じていた。

始球式直前、国学院大(一塁側)ベンチ前で1球ごと丁寧なキャッチボールをした。背広姿ながら胸をぐいと張る投球フォームは玄人はだし。さらに中大硬式野球部マネージャーからマウンドのプレート

板を踏む脚の使い方も学び、周到な準備を重ねていた。

少年時代はプロ野球がON人気で沸いていた。巨人の王貞治、長嶋茂雄両選手が子供の憧れだった。銭湯の下足箱はONの背番号の1と3から埋まっていった。

福原先生も少年のころから野球を始め、大学生時代までプレーした。かつて学研連研究対抗戦が神宮球場近くの軟式野球場であり、幾つかのポジションについて。

野球への熱い思いは、ゼミ生にも注がれる。ゼミの夏季合宿では、勉強のほかに野球もする。グラウンドでは、こんな声が飛び交うようだ。

福原先生にデッドボールを当てたら単位は取れないぞ！ 三振さ

せても単位は取れないぞ！

教室とは違う、ざっくばらんな雰囲気をつくるのが野球である。福原ゼミは硬軟を併せ持つ。

始球式で感じたことがあるという。「守備を見渡すとたくさんの人が支えてくれている。スタンドではたくさんの人が応援してくださる。みんながいて安心感があります。グラウンドは人を育てるので

すね」

始球式に先立つ開会式の連盟あいさつでは「選手が育つ環境づくり」に腐心する連盟を強調した。

「神宮と甲子園は学生にとって特別な球場です。ここを目指して学生たちが日々練習しているんだ、とマウンドへ上がる時に感じましたね」

福原先生は感慨深げにそう語った。



始球式のマウンド写真  
(写真提供=宮本裕次氏)

## ⑩ 始球式がつなげる夢

神宮のバックネット裏で、福原教授の始球式に声援を送っていたのが、宮本裕次さんご夫妻。二男・稜さん(法3)が中大硬式野球部の内野手だ。

父母連絡会の大阪府支部長でもある。福原野球部長と親交を深め、いまや大の福原先生ファン。「先生が次に始球式のマウンドに立つとき、息子が内野を守っ

ていたら、どんなに素晴らしいか」と夢を語る。

稜選手は一般入試で入学。不断の努力が認められ、春季からベンチ入り。開会式参列は初めてだった。ライバルは10人超の高校野球・甲子園大会出場選手ら。戦国東都リーグとチーム内の激しい競争のなかで、大きな成長を遂げようとしている。

# 司法試験合格 全国最多の341名

平成28年司法試験(短答式試験)の結果が法務省から発表され、本学法科大学院から

全国最多の341名が合格しました

6月2日(木)に法務省から発表された平成28年司法試験(短答式試験)の結果によると、「短答式試験の合格に必要な成績を得た者」の数につき法科大学院別上位5校は以下のとおりでした。

なお、最終合格者は9月6日(火)に発表される予定です。

■大学院別「短答式試験の合格に必要な成績を得た者」の数<sup>(※)</sup>

〈順位〉 〈法科大学院〉 〈人数〉

〈順位〉	〈法科大学院〉	〈人数〉
1位	中央大学	341名
1位	早稲田大学	341名
3位	慶應義塾大学	280名
4位	東京大学	222名
5位	明治大学	182名

(※)予備試験合格者を除く